



市園 豪さん(43)

時吉地区出身。高校卒業後、東京で就職するが、地元で働きたいとの想いが強く帰郷。自動車整備関連の会社に就職し、30歳で同地区に自動車整備工房1ZONを開業。4人の子どもがおり、現在は県PTA連合会の副会長としても活動している。



自動車整備
×
市園 豪

▼市園さんには様々な依頼が来ますが、中にはとても難しい案件もあり、苦勞するそうです。しかし「終わりの来ない、ゴールの無い仕事は無い」との信念から依頼には必ず応じます。「自分一人で解決できないこともありました。同業の技術者たちにもアドバイスをもらい、解決できました。仕事を通してお客さんや自動車関係の様々な人と信頼を築いてつながりができていくので、やりがいがあります」と話します。

▼昔から機械いじりが好きだったと話す市園さんですが、自動車の技術の進歩は早く、追いつくのは大変だそうです。「勉強は大変ですが、技術があればお客さんとの信頼関係もでき、実績も上げられます。自動車の整備の働き方も変わり、今の車屋さんはいろいろな電子機器を使いこなして、かっこよく働いています。若い人にもっと知ってほしいですね」と笑顔を見せます。

▼時吉地区にある株式会社1ZON。敷地内には整備の依頼を受けた自動車かずらりと並びます。工場自動車整備に汗を流すのは同地区出身の市園豪さん。市園さんの確かな技術を頼って多くの依頼が寄せられ、忙しい日々を送っています。

盈進小学校卒業式。
PTA代表でお祝いの
言葉を伝えました。



スキャンツール。
自動車と接続して正常に作
動しているか診断します。

北薩空港幹線道路早期完成を要望

8月10日、東京都で北薩空港幹線道路整備促進期成会と国道328号整備促進期成会が、国土交通省と財務省に北薩横断道路の早期完成と早期整備を要望しました。会長を務める上野俊市町長は、スパークプラグや養殖ブリなど沿線地域で生産される物の輸送効率化や災害時の代替道路として北薩横断道路の必要性を挙げ、溝辺道路や広瀬道路、宮之城道路、阿久根高尾野道路など現在整備中の区間の早期完成と供用推進、安定的な財源確保を求めました。藤井直樹国土交通事務次官は「空港アクセスという点で重要視している。また、防災ルートとしても必要であると認識している」と回答しました。



藤井国土交通事務次官（中央右）に要望書を提出しました

（株）プレシードと立地協定を締結

7月29日、株式会社プレシードのさつま工場新設に伴う立地協定調印式が、橘木宏幸北薩地域振興局長の立ち会いのもと行われ、協定を締結しました。同社は、平成元年に熊本県下益城郡松橋町で操業を開始し、工場を自動化するための独自開発した産業用機械を設計から製作、据付まで行っており、平成29年度には経済産業省から地域未来牽引企業に選定されています。今回の進出は、増加する新規受注に応えるためであり、新規雇用者も15人を予定。松本修一会長は、「鹿児島の企業と協力しながら事業拡大を図りつつ、町の活性化にも貢献していきたいです」と話しました。



左から上野町長、松本会長、橘木局長

さつま町持続可能な森林づくり交付金が創設されました

伐採した森林の跡地に木を植え再び森林を造ることで様々な恩恵を受けられます。町では適正に森林を育成することで森林資源を持続的に利用しながら、国土の保全や地球温暖化防止を図るため町持続可能な森林づくり交付金を創設しました。造林した面積から二酸化炭素の吸収量を計算して交付します。

■交付対象者

森林所有者など

■交付金額

- ・スギやヒノキなどの針葉樹
造林した面積10aあたり11,000円
- ・クヌギなどの広葉樹
造林した面積10aあたり3,000円

※交付額の合計に端数が生じた場合は1,000円未満の端数は切り捨てます。

※町持続可能な森林づくり交付金は、国の森林環境保全整備事業（造林事業）とは別に交付されます。



■交付条件

- ・10a以上の人工造林のみ対象
- ・植栽本数は1haあたり1,500本以上
- ・造林樹種は、スギ、ヒノキ、クヌギ、シイ、カシなどです。その他の造林樹種については、耕地林業課林業振興係までお問い合わせください。

申込み・お問い合わせ先
耕地林業課 林業振興係（内線2432）

